

図書教材新報

Books
teaching
materials
magazine

Vol.247

今月の特集

①教材活用シリーズ 小・中学校で学習する漢字や語句を
効率的に総復習できるドリル教材（P. 6～7）

図書教材新報
Books teaching materials magazine

2025.11.25 Vol.247 (total 1876号)
1956年1月5日 創刊 毎月25日発行

紙かデジタルか―米国の実態調査から考える

一般社団法人日本図書教材協会副会長
広島大学名誉教授

一宮 皓



2024年4月の全米の公立学校の教員等

（1,583人）を対象とする「OER・教科書使用状況」調査結果を紹介しながら、中教審デジタル教科書推進WGの審議まとめ（紙とデジタル教科書の使用）の課題について考えてみたい。

・教科書の使用―83%が学校で決められた教科書を使用。

使用義務はないが、多くの教師は適切に使用している。日本では教科書の使用義務がある。

・ハイブリッド使用―60%が紙とデジタルのハイブリッド使用。

紙の教科書のみ、またはデジタル教科書のみは、19%、21%と少なく、ハイブリッド使用が多いが、その経年変化（3年間の間）では、紙の教科書のみ割合が減少し、ハイブリッド使用が49%から60%に増大。デジタル教科書のみ使用はあまり変化なし（19%→21%）。中教審は今後、3つの形態の中から地方公共団体の選択に任せるとしているが、ハイブリッド使用に

関するガイドブックや研修が必要となるだろう。
・学年によるデジタル教科書の使用に配慮？（中教審）

米国の調査では、低学年でのデジタル教科書のみ使用が12%（中等段階で25%）、紙の教科書のみ使用は26%となっている。他方、ハイブリッド使用については学年による差はない（60%前後）。ハイブリッド使用を基本とし、適宜授業の展開において学年差を考慮すること（教師の裁量）が適切か？

・紙かデジタルか―生徒の学びは？

紙の方が「生徒がよく学ぶ」（57%）と考えられ、デジタルは「柔軟性に富んでいる」（70%）としている。近年北欧では紙の教科書への回帰がみられる。この課題は、教師の経験と知見に任せられるのかもしれない。エストニアでは教師の裁量を尊重することで成果をあげている。

【資料】Bay View Analytics (2024), Conflicted Digital Adoption: Educational Resources in U.S. K-12 Education.

学第37回研究発表大会、香川大学で開催

シンポジウム・研究プロジェクト・自由研究発表を実施 学校用教材の展示も

日本教材学会（澤崎眞彦会長）では、9月27、28日の2日間にわたって、香川県・高松市の「香川大学教育学部」にて第37回研究発表大会を開催し、会員を中心に、研究者、教師、教材出版社、販売店、学生等が参加した。大会1日目は自由研究発表、シンポジウム、2日目は、自由研究発表、研究プロジェクトが開催された。合わせて、1日目には理事会、2日目には総会を開いた。また、両日とも、日図協・全図協加盟出版社の学校用教材の展示を行った。

◎シンポジウム

「深い『探究』の学びに導く教材の在り方」

伊藤裕康氏（文教大学教育学部） コーディネートのものと、前半は小原友行氏（広島大学）による『深い学び』を引き出す探究型教材の開発「ジョン・デューイを追いかけた個人研究史を通して」と題した基調講演が行われた。後半は、3人のシンポジストが登壇し、それぞれ次の専門領域から見た提言を行った。

▼細川太輔氏（日本教材学会副会長）

「国語科の視点から」

▼松島充氏（香川大学）

「算数・数学科の視点から」

▼越川徹郎氏（東京学芸大学）

「音楽科の視点から」

◎研究プロジェクト、自由研究発表

自由研究発表は33本行われた。研究プロジェクトは以下の3本であった。

石川勝彦氏（鳴門教育大学）、江原謙介氏（阪南大学）

『感情史』の概念装置を援用した新しい道徳授業の開発「集合的な道徳感情の生成・制御への視点の拡大を目指して」

藤井大亮氏（東海大学）、前田善仁氏（同）、増田有紀氏（埼玉大学）、細矢智寛氏（女子美術大学短期大学部）、木野正一郎氏（IPU・環太平洋大学）

探究型教育・教材の理論的・実践的研究

山口直人氏（教育同人社）、朝倉徹氏（東海大学）、柿田みずき氏（教育同人社）、阿部由夏里氏（同）

デジタル社会における教材の刷新に関する実践的、理論的な基礎研究―教材会社と研究者の協働による教材の概念研究と既存教材の検討―

リスニング12

英語 入試対策用

定価(税込)360円 A4判 全12回
2色刷り大判てびき・教師用音声CD付

信頼をつちかい 学びで未来をひらく

株式会社 浜島書店

〒466-8691 名古屋市昭和区阿由知通2-1-1
TEL 052-733-8040(代) FAX 052-733-8977

<http://www.hamajima.co.jp/>

2026年度版

★最新の入試実例リスニング
で全問を構成

- 全国の入試傾向を分析・反映
- 1回あたり、4～8分

★大判で見やすいてびき

◎音声CD付き(教師用)

◎Webでの音声再生に対応

- てびきの二次元コードでご提供
- 復習や自宅学習に最適
- 3段階のスピード調整可能

令和8年度用

リスニング12 リハーサル 英語

入試対策

すべての問題を
最新入試で再構成

入試頻出の
問題パターンを網羅

●音源がてびきでわかる

●解説は全問解説付き

●音声CD付き

●音声CDを再生し、Webで音声再生

●てびきの二次元コードで、

音源を再生しながら復習できる

●再生スピード調整機能付き

浜島書店



◎学校用教材のブース展示

今回初の試みとして、日図協・全図協加盟出版社の学校用教材（図書・デジタル）を、香川県協会を中心とした会員販売店の協力のもとで、ブース展示した。大会に参加した、教材研究者、教師のほか、会場校である香川大学教育学部の学生にも学校用教材を手にとってみてもらい、教材の価値役割、紙とデジタルを組み合わせた教材活用、先生による教材の採用の重要性などを知ってもらう機会となった。



学校用教材 ブース展示

◎理事会・総会の開催

理事会・総会では、決算・事業報告などを行い、いずれも承認した。特に、次年度より、総会を研究発表大会時（9月または10月）から、事業年度開始（4月）に合わせて5月に開催することを承認した。

10月16日

◎中学校営業部長会を開催

中学校営業部長会では、2025年度第1回部長会を大分市「ホルトホール大分」で開催した。内定していた次期正副幹事長の確認をしたほか、各都道府県協会総会の報告、みらいの学びプロジェクト、全中メルマガ、出版社営業社員研修会企画等について協議した。

◎部長会後

には、九州ブロックとの意見交換会を行い、これから求められる営業活動や教師用書の取り扱いについて製販合同によるグループディスカッションを行った。

10月17日

◎九州ブロック勉強会

「新ネクストスタディ」第2回を開催九州ブロック（中井寛代表）では、勉強会を大分市「ホルトホール大分」で開催した。

九州ブロック会員販売店より16名、加盟出版社11社より28名、全図協事務局より2名のほか、教育関係者や教育学部生なども参加した。当日は、東海大学総合教



九州ブロック「新ネクストスタディ」



中学校営業部長会と九州ブロックとの意見交換会

新 サービスのご紹介

光文書院の2026年度版



第22回日本e-Learning大賞
個別最適な学び特別部門賞受賞

テスト

音声読み上げつきテスト

教師用
無料



読むことに
配慮が必要な
子どもたちへ

業界初
国算理社
4教科

AIで校務が進化！ ひまわりAI

教師用
無料



迷わず採点AI
おたより作成AI
多言語翻訳AI



学ぶことが好きになる。
光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町 14
TEL: 03-3262-3271 (代表)
ホームページ: <https://www.kobun.co.jp/>

最新情報は順次公開予定！



※本広告に掲載の画面や内容は開発中のものであり、予告なく変更する場合があります。

育センター・朝倉徹教授による「生成系AIがもたらす学校現場の変化と、望まれる教育貢献とは？」アナログ+デジタルの力で新しい力を生み出そう」と題した基調講演があり、その後、販売店対象のグループディスカッション、出版社と教育学部生による教材勉強会、講師を交えた座談会に分かれてそれぞれ参加した。

10月21日

回 小学校営業部長会を開催

小学校営業部長会では、2025年度第1回部長会を「協定会議室」で開催した。

当日は、はじめに正副幹事長の選任を行い、幹事長に日本標準・森田祐樹営業部マネージャー、副幹事長に文溪堂・松村吾朗営業部長を選任した。

その後、都道府県協会総会の報告、CBT化の動向や教師用書の公費化の働きかけをふまえた教師用書への価格表記の在り方についての情報交換、滅失教材の提供対応に関する販売店向けガイドライン等について協議した。

10月31日

全 北関東ブロック

「つながるセミナー」第2回を開催

北関東ブロック（狩野正樹代表）では、第2回「つながるセミナー」を宇都宮市「ホテルニューイタヤ」で開催した。

当日は、北関東ブロック販売店、加盟出版社、全図協事務局などから計101名が参加した。第1部は「学校直販におけるコンプライアンス

スについて」のテーマのもと、全図協・渡部竜士専務理事が講演を行った。第2部ではデジタル実践研修として、日図協加盟出版社のデジタルコンプレックスのプレゼンテーションが実施され、参加者は教材の機能や活用方法を実際に体験しながら、デジタルコンテンツへの理解を深めた。



北関東ブロック「つながるセミナー」

11月7日

全 東京都中学協会 情報交換会を開催

東京都中学協会（依田誠会長）では、情報交換会を「協定会議室」で開催した。

当日は、会員販売店から29名、全図協事務局から3名、計32名が参加した。

当日は、はじめに「私たちの課題とこれからの私たちの取り組み」対外的な働きかけに向けてのテーマのもと、全図協・渡部竜士専務理事が講演を行った。そのほか、依田会長から全中活動における全中目安箱とアンケートの分析と報告が行われた。後半には、「これまでの話を聞いてどう思ったか」「この業界において今後どう成長していくべきか」をテーマにグループディスカッションが実施され、参加者同士が率直な意見を交わす場となった。

秀学社 | 2025年度発行の国語教材



新しい国語のワーク

- 新しいワークは **マンガ** で楽しく学び成績も UP
- 定期テスト対策 勉強も **充実!**

自学習用に **ピッタリ!**

改訂版

640円
(税込)

光村図書版 1~3年
仕様/B5判・160p/168p/144p・カラー



コク×スク

- 子どもの生活体験のなかで **情報** を学ぶ、新しい教材
- 入試対策 にも役立ちます

新刊

300円
(税込)

標準版 生徒用レベル1~3 (各5回)
仕様/B4 パラテスト・教師用書付き

全各ブロックで会議を開催

11月の全図協理事等諸会議に備えて、各ブロックではブロック会議を開き、新学期販売分析や諸課題について検討している。

◇九州ブロック

10月17日に大分市「ホルトホール大分」で開催。各協会の役員など23名、加盟出版社2社より2名、全図協事務局より1名が出席。

各協会からの情勢報告や、ブロック会議後に予定している新ネクストスタディの運営、新学期以降に予定している研修会の企画や方針について確認。



九州ブロック

◇四国ブロック

10月18日に観音寺市「大野原会館」で開催。各協会役員11名が出席。

12月に「図書教材ネット」や教師用書の公費化に関する研修会を実施することを確認。ブロック会議出席時の交通費負担に関するブロック規約の見直しを承認。

◇東北ブロック

10月24日に盛岡市「ホテル大観」で開催。各協会役員20名が出席。

各協会や支部で取り組んでいる小規模校対策、教師用書の公費化について情報交換。

◇北信越ブロック

10月24日にあわら市「まつや千千」で開催。各協会役員13名、加盟出版社2社より2名が出席。

協会長会議分科会をふまえた各協会での取り組みについて情報交換。ブロック役員の選任方法について規約の見直しも含めて継続検討していくことに。

◇近畿ブロック

10月25日に大阪市「ハートンホテル北梅田」で開催。各協会役員23名、加盟出版社2社より4名、全図協事務局より1名が出席。

小・中学部会に分かれて分科会を開催。

会議前には全図協・渡部竜士専務理事による「教育行政の動向とこれからの私たちの取り組み」と題した講演会を開催。



近畿ブロック

※ お知らせ ※

販売店向け教材Web発注システム 「図書教材ネット」

日本図書教材協会が運用している、全図協・会員販売店向けのWeb発注システム「図書教材ネット」が無償でご利用いただけます。

お申し込みは、随時受け付けておりますので、ご希望の方は、協会ホームページ内の右上「会員専用ページ」（要パスワード）よりお申し込みください。

協会HP <https://nit.or.jp>

「会員の方へ」《パスワード：kagura6》

〓 都道府県協会 会員だより 〓

☆代表者・商号・住所変更のあった会員☆
（代表者変更）

千葉県：（有）成田教材（成田市）

新代表：坂内真由美

千葉県：（株）今村商事（千葉市）

新代表：山重仁志

長崎県：（有）学友社（長崎市）

新代表：播本彩

◇◇ 訂正 ◇◇

第246号（2025年10月25日発行）に掲載した都道府県協会会員たよりのなかで一部誤りがありました。

山梨県・（株）山紫堂の代表者変更はございませんので訂正いたします。

教材活用シリーズ 第184回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果を得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

小・中学校で学習する漢字や語句を 効率的に総復習できるドリル教材

(株)五ツ木書房
『漢字と語句』
『漢字5分間テスト』国語



にしかわ はなこ
西川 華子
(株)五ツ木書房
第一編集部・国語担当

1. はじめに

今年の9月末、ある学習アプリ開発会社と国立大学法人が、「日本教育工学会 2025年 秋季全国大会」で発表した研究成果によると、研究調査に参加した小学生は、紙のドリルについて書写や送りがな、文字構造の理解に役立つと評価していることがわかりました。

この研究は、「先生による説明」・「学習アプリ」・「紙のドリル」という三つの学習方法が、漢字学習におけるさまざまな学習項目のうち、どれについて効果的だと小学生が評価したかについて調査したものです。例えば、「先生に

よる説明」は漢字の意味や用法の理解に、「学習アプリ」は反復学習や学習進捗管理にそれぞれ役に立つという結果でした。「紙のドリル」は手を使って繰り返し練習することで基本技を強化する学習方法として高い効果を発揮するため、前述の評価がなされたのだと考えられます。

次期学習指導要領が小学校で全面实施される予定の2030年度から、デジタル教科書も正式な教科書として認める流れになっていきますが、懸念されているような、「デジタルか紙か」という二項対立ではなく、学習の目的に応じて使い分けることが求められるでしょう。

2. 教材の特長

本稿では、紙媒体のドリル教材『漢字と語句』『漢字5分間テスト』をご紹介します。両教材は、小・中学校で学習する漢字や語句を効率的に学習し、高校入試に向けた知識を定着させるために制作いたしました。

『漢字と語句』は、中学1～3年各35回編成で、表裏合わせて100点満点としています。表面の upper 段に漢字の読みとり、下段に漢字の書きとりの問題を配置しています。裏面は漢字クイズや同音異義語・同訓異字、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用語、対義語・類義語、和語・漢語・外来語、熟字訓、熟語の構成など回によって多種多様な語句の問題を配し、すべての回に「次の出題漢字」という予習コーナーを設けています。令和7年4月からの新教科書使用に合わせて改訂しました。

『漢字5分間テスト』は、中学1～3年各72回編成で、表面のみで10～14問としています。表面はすべての回で漢字の書きとり4問、読みとり4問に加え、総画数、かなづかい、漢字しりとり、誤字の訂正、都道府県名、漢字の成り立ちなど、回によって多種多様な語句の問題を配しています。裏面は、次回出題内容の予習用問題にしています。

(1) 共通…「書きとり」は小学校学習漢字から、「読みとり」は中学校学習漢字から出題

公立高校入試では、「書きとり」は小学校学習漢字から、「読みとり」は中学校学習漢字から出題される傾向があります。しかし、例えば

▲ 予習用問題

▲「書きとり」は小学漢字、「読みとり」は
中学漢字から

弊社が所在する大阪府で実施される公立高校入試（令和7年度一般入学者選抜のうち、標準的難易度とされるB問題）では、「書きとり」の平均正答率は $62 \cdot 3\%$ 、「読みとり」は $65 \cdot 3\%$ というように、「書きとり」の方がやや低くなっています。私たちは、公立高校入試を見据えて読み書きどちらにもまんべんなく学習できるようにという意図をもって両教材を作成しました。

(2)共通…予習用問題↓本テストの「完全リレ－式学習」で確実に知識を定着

知識の定着には、復習が欠かせません。

両教材は、各回の終わりに予習用問題をつけているので、前の回で予習用問題に取り組んで、次の回の本テストを解くことが復習になります。これにより、達成感をもって確実に知識を定着させることができます。

(3)『漢字と語句』…表面は予習の成果を、裏面は実力を測る構成

表面は、前の回で示された予習用問題の内容をそのまま出題しているので、予習の成果を見ることが出来ます。

裏面は、漢字クイズや同音異義語・同訓異字など、予習用問題には含まれない語句の問題です。ここで実力を測るとともに間違えた問題は新たな知識としてとり入れることが可能です。

(4) 『漢字5分間テスト』.. 手で書いて覚える基礎学習のための漢字練習用のマス目

すべての回の裏面には、次の回で書きとり問題として出題する漢字を書き写すためのマス目を設けています。これにより、部首や漢字のバランスなど文字構造の理解を助けます。

紙とタブレット端末で比較したとき、紙の方が書いた内容を記憶する効果が高いという調査結果を何度も耳にするこの時代に、生徒たちには入試本番と同様に紙に書く従来の学習方法をやめずに実践し続けてほしいと考えています。

▲漢字練習用のマス目

3. 終わりに

漢字一字一字の音訓を理解し、語句として話や文章のなかにおいて文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことは、読解力・表現力の基礎になります。読解力・表現力は、国語科のテストでよい成績を取るためだけでなく、他教科の学習にも深く関わります。何よりも、生徒たちがこれからの長い人生でより深く学び、よりよく対話するための、大切な手段となる力です。私たちの教材が、生徒一人ひとりの読解力・表現力の向上に寄与し、豊かな人生を送るための一助となることを願い、本稿を締めくくります。

2024年度事業報告概要

I. 小・中学校教育等の振興への寄与事業

○教師等を対象としたセミナーやイベントの開催

各ブロック等が企画する教師等を対象としたセミナーやイベントに対して運営の協力を行った。今年度の企画は次の通りである。

- ・近畿ブロック「教材フェスティバル大阪」
- ・静岡県協会「小中学校のICT教育の現状と未来」

○教員養成機関等への支援

II. 図書教材等の適切な普及と供給に関する調査研究事業

○学校直販業界の任務や役割の確認と、協会が目指すべき方針の策定及び周知

学校直販システムと販売店の存在意義を確認するとともに、全図協チラシなどを活用して、学校への啓発宣伝に努めるよう求めた。

そのほか、各出版社から取引販売店に対し、学校直販販売店としての任務、役割の確認のための適切な指導を行った。

○会員並びに従業員の知識及び質的向上のための研究と研修

会員販売店向けの研修会や講演会等の開催協力を行った。

○市場拡大策の研究と実施

学校用教材の採用促進及び公平採択促進の各種運動について、地域の実情に即した啓発活動を継続して実施した。

○全国を対象とした災害復興支援の実施

2024年1月1日に発生した能登半島地

震を「全国災害復興支援制度」の認定災害とし、石川県の会員販売店を対象に2024年1月～12月までの1年間で運用を行った。

そのほか、出版社では各地の災害にに応じて減失教材の献本対応を実施した。

○小規模校、少人数学級対策等の研究

○再販制度維持の調査研究

○日図協との連携によるデジタル教材及びICTを活用した教育に関する調査研究

・各協会や営業部長会を中心に各自治体でのデジタル教材の導入状況や端末のリリース等の情報収集と共有を行った。

・文科省から協力要請のあった学校とのFAXでのやり取りの慣行の見直しについて、先生の業務の負担軽減を目的としたうえで協力していく方針を確認し、そのうえで、販売店を中心に学校からの注文システムの開発に向けた検討を進めた。

○教材等著作権保護委員会との共同による図書教材等の著作権保護に関する啓発宣伝

教材等著作権保護委員会と共同で深刻な被害を生じている学校用教材等の複写複製利用の阻止対策を実施した。

○ネットオークション対策

○業界ネットワーク構築の推進

○文科省等との連絡協調と文科省有識者会議への参画

文科省教科書課、教育課程課、学校情報基盤・教材課、学校デジタル化PT、教育DX推進室、デジタル庁等と随時連携を図り、学校用教材の情報提供と諸課題についての意見交換を行った。

・文科省「学校とのFAXでのやり取りの慣行の見直しについて」協力依頼を受けた対応

・文科省「教育データ活用に関する有識者会議」での発表（2024年9月20日・渡部竜士専務理事より学校用教材の現状と教材データ利活用における課題についての発表）

・文科省「デジタル教科書推進ワーキンググループ（WG）」での発表（11月21日・渡部専務理事よりデジタル教科書の課題や教材との連携について発表）

・文科省「初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルに関する専門家会議」（旧…学習ポータルに関する専門家会議）への委員参加と提案（2025年1月9日、2月27日・渡部専務理事より学習ポータルの公共性を担保した運用などを提案）

・日図協との連名でデジタル教科書推進WG「中間まとめ」に対する「意見書」を提出（3月24日）

○PTA団体との連携

・全国国立大学附属学校PTA連合会の「第15回全国大会」に渡部専務理事と依田誠理事、吉田勉東京都（小学）前協会長が出席した。
・日本PTA全国協議会からの依頼により「年次表彰式・祝賀会」に来賓として細谷美明会長と宍戸亮太事務局次長が出席した。

III. 図書教材業界の発展のための研究と啓

発宣伝事業

○図書教材と業界の価値、役割の啓発宣伝

図書教材の価値、役割と学校直販業界の社会的重要性を広く啓発宣伝した。

また、日図協との連名で、全国の各教育委員会に対して「学校における教材採用について（要望）」を送付した。

○都道府県協会の会員名簿の各教委への送付

IV・事業推進のための組織強化活動

○都道府県協会組織の強化

都道府県協会と出版社の双方協力のもと、相互連携の強化を図り、各協会の円滑な運営、各種研修会の実施、協会育成強化費（拠出金）の実施、功績者の顕彰、その他各協会の事業・活動がより充実したものとなるための諸施策等を行った。

○ブロック活動と小・中学部会の充実

ブロック助成金や研修会等助成金を有効に活用し、ブロック会議や研修会を開催した。

○各都道府県協会、各会員販売店間の情報交換の促進

○各都道府県協会会員販売店及び従業者の福利厚生の上

（主なもののみ）

2025年度事業計画（主な事業の具体案）

1. 会員並びに従業員の知識及び質的向上のための研究と研修

◇会員並びに従業員のために、オンラインも活用してさまざまな課題に対する研修会等を企画・実施する。

◇会員並びに従業員のための体系的な研修制度として、日本教材学会との合同委員会を中心に「教材士研修制度・基礎コース講座」を

運用していく。

◇協会・業界の次世代のリーダー層の人材育成を支援するための専門機関を幹事会の下に設置し、人材育成のプロセスとして、次のような取り組みを行う。

- ・各ブロックや都道府県協会単位での次世代リーダー主体の組織設置の支援及び既存若手組織との連携
- ・次世代リーダーのための研修会の企画
- ・全国規模の次世代リーダーによるコミュニケーション（意見交換の場）の設置、提供

2. 教育のICT化に対応して協会として取り組むべき課題の整理と対策

◇教育のICT化への対応として、日図協と連携しながら、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有、及び広報活動をはじめ協会として取り組むべき課題の整理と対策を進める。

◇学校現場でのFAX見直しへの対応として、学校現場の現状や課題等の情報収集と、効率的な学校からの注文システムの研究と開発を進める。

3. 学校用教材の採用促進のための活動

◇日図協と連携しながら、学校用教材の現状と課題を整理し、それを踏まえて、国・自治体・政党・議員・関係団体等に対して、教材費予算拡充を含めた学校用教材の採用促進のための働きかけを進める。

◇先生を対象としたデジタル教材の使用実態や自治体採択への在り方等に関するヒアリング企画の実施と、文科省等への情報提供を進める。

4. PTA団体との連携

◇日本PTA全国協議会（日P）や全国国立大学附属学校PTA連合会の周年行事等に出席し、連携を深める。

◇日Pの全国及びブロック研究大会で都道府県協会や会員販売店、教材に関する宣伝活動を進める。

5. 会員販売店向け販売管理システム「全販システム」の運用、改善と、加入促進

◇「全販システム」の加入促進として希望販売店への説明会や働きかけを行う。販売店の業務の効率化をサポートするために、「全販システム」の機能追加等の改修を進める。

6. 学校用教材のインターネット等を経由した転売行為への対策

◇インターネットオークションやフリーマーケットサービス運営企業と共同して対策を進めていく。

◇見本本を通じた啓発の研究や、見本本の管理・回収の徹底などを推進していく。

7. 教師等を対象としたセミナーやイベントの開催への支援

◇各ブロックや協会が主催する教師向けのセミナーやイベントに対して支援を行うとともに、申請に応じて助成金支給規程に則り助成する。

8. 日本教材学会との連携と、活動への積極的な参加

◇日本教材学会の活動に積極的に参加し、教材の質と業界の地位の向上、及び会員並びに従業員の知識及び質的向上を図る。

9. 小・中学業界の諸課題の協議をふまえた各種取り組みの推進

◇ブロック小・中学部会長会議と出版社営業部長との協議会での取り組みについて推進していく。

【小・中学共通の協議事項】

- 教育現場のICT化への対応として、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有、及びこれからの小・中学業界のあり方の研究、協議
- 自治体等による教師用書の取り扱いに関する情報共有
- 物流事情理解のための学校や会員への周知徹底

【ブロック小学部会長会議】

- 評価テストのCBT化への対応
- ・CBT化の動向について製販で情報収集・共有し、それをふまえた対策を地域毎に随時検討していく。
- 小規模校対策
- ・各地の取り組みも参考にしながら、引き続き販売店側で主体的に取り組める対策を検討していく。

○見本の簡素化

・2025年度の新学期見本において各出版社で行った対応をふまえて引き続き出版社側で研究していく。

【ブロック中学部会長会議】

- 「子どもたちのみらいの学びを支えるプロジェクト（略称：みらいの学びプロジェクト）」
- ・営業部長会とブロックとの意見交換会を年2

全図協 総合補償制度のご案内

全図協オリジナル

**充実の補償内容！
この保険があれば安心！**

補償その1 → 商品搬入時に学校
内で生じた対人・対物事故

補償その2 → 集金時や事務所での
現金・小切手盗難



＜お問合せ・お申込み先＞

全図協事務局（TEL 03-3267-1041）までお願いします。

編集後記

『生成AI時代の「超」仕事術大全』（保科学世著）に、人間と生成AIそれぞれの得意なことをマッピングした図が掲載されています。生成AIが得意なのは、スピード、知識量、ビジネス文書作成等、人間が得意なのは、情熱、共感、五感を通じた経験や判断、倫理判断等とのことです。

人間が得意なことは、日頃から先生方と対面でやり取りをされている教材販売店の皆さまのお仕事そのものです。

これからますます生成AIに取って代わられる業務も増えると思われれますが、逆に人間が得意なことは価値が高まり、必要とされてくることは間違いありません。

生成AIが得意な分野はむしろ上手に使いこなし、そして人間が得意な部分、つまり日頃から教材販売店の皆さまが教材販売で磨かれている能力をさらに強みとして活かしていけば、外部からの敵にも負けることはありません。変化を怖れず情熱をもって頑張っていきたいと思います！
(竜)

教材士研修制度 基礎コース講座

今年度も会員販売店と加盟出版社を対象に実施しています。講座の追加のほか、全会員向けの無料講座（特別講座）も開講しています。

講座内容の詳細、受講のお申込みは協会ホームページよりお願いします。